



入所者が生活する開放的な内装のスペース―一宮市富田の「一宮医療療育センター」で

## 重度心身障害児施設が完成

### 一宮、来月から運用

重度の心身障害児のための入所施設「一宮医療療育センター」が一宮市富田に完成し、二十三日に内覧会が開かれた。来年一月十二日に運用が始まる。

センターは、在宅でのケアが難しい障害児や障害者が、介護や医療サービスを受けながら生活する施設。県内では名古屋、春日井と豊橋の三市に計五カ所あり、一宮のセンターは西尾張地域では初めての開設だという。

一宮は、県内で初めて民間の社会福祉法人「杏嶺会」が開設し、運営する。地上四階建てで延べ八千平方メートル。ベッドは百二十床あり、診察室や院内学級、寝たままでも利用できる浴室などを完備している。

内覧会には、大村秀章知事と中野正康市長ら百五十人が出席。上林公子理事長は「民間

ならではの細やかなケアで、利用者と家族に安心してもらえるセンターにしたい」と話した。

(梶山佑)